

まずは現状を
セルフチェック!

わが子に中学までやっていたことと、
これからもやろうと思うことをチェックしてみましょう

生活編

	中学まで	これから
● 毎朝子どもを起こしている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
● 子どもの部屋を掃除している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
● 子どもが出かける前、忘れ物や服装の寒暖調節などを気遣っている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
● 子どもが就寝するまで自分も起きている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
● 「何時までに〇〇(TV、食事、ゲーム等)しなさい」という会話をよくする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
● 用もないのに子どもの部屋をのぞきに行く	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
● 子どもの衣類は主に親が買いに行っている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
● 子どもの携帯をチェックしている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
● 子どもの嫌いなメニューや食材は出さない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
● 子どもの外出先や週末の予定を常に把握している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

勉強編

	中学まで	これから
● 勉強や勉強方法について、子どもに指導している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
● 時間割を細かく把握している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
● 塾選びを保護者主導でしている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
● 今学んでいる単元など、勉強の進捗をチェックしている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
● 子どもに質問されてもいいように自分も勉強している科目がある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
● 子どもの教科書やノートをチェックし、勉強への取り組み態度を確認している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
● 勉強しなさいと毎日のように言っている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
● 文房具はほぼ親が買いに行っている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
● 定期テストや模擬試験の結果を子どもよりも分析・理解している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
● 定期テストや模擬試験の結果が悪いと、子どもを叱る	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

進路選択編

	中学まで	これから
● 進学先(高校・大学)を調べている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
● 進学先(高校・大学)の見学に行った(行こうと思う)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
● 先輩保護者から情報収集している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
● 子どもに希望の進路を尋ねたり、早く進路を決めなさいと促している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
● 親が希望する特定の進路を、子どもに勧めている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
● 子どもに向く仕事や学校を検討し、子どもに勧めている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
● 子どものために大学の資料などを取り寄せたことがある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
● ある特定の進路・職業について、親は反対だと子どもに伝えている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
● 子どもの選んだ進路やなるための方法を研究している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
● 向いている科目や文理選択などは親が判断しアドバイスしている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

それぞれどれくらいありましたか？
次のページで先輩保護者の実態と比べてみましょう

合計 中学まで 個 これから 個

「保護者」から「自立支援者」へのギアチェンジ

高校生のわが子に

どこしまでかかわるべき？

親から見たらまだまだ頼りなくても、義務教育が終わった子どもたちは着実に大人への階段を上り始めています。
この先、大学受験、就職と、自立に向かっていくわが子に対し、これから親はどうかかわっていくべきなのでしょう？

取材：文／長島佳子 イラスト／曾根愛

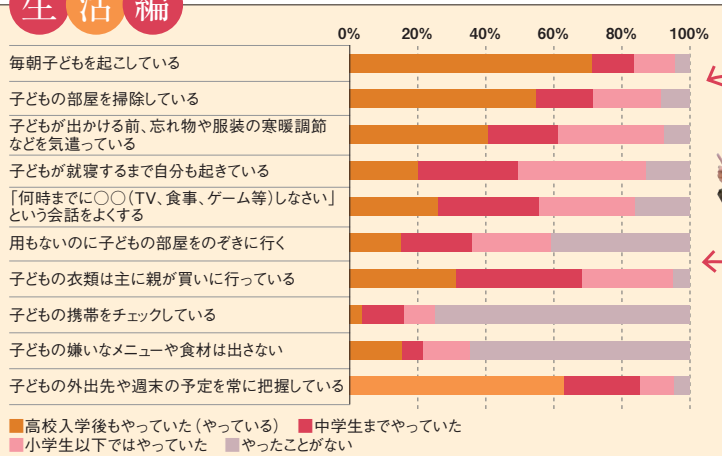


先輩保護者の実態を チェックしてもらいました!

右ページと同じ内容で先輩保護者にアンケート。その回答に対してご意見番の先生の感想をうかがいました。

*アンケート概要：高校1年生、2年生の子を持つ全国の保護者400名に、インターネットで調査。
調査期間：2013年12月下旬。調査協力：株式会社マクロミル

生活編



自分から起きたり掃除したりしてくれたら親もうれしいはずですね。できるまでやらせてみてはどうでしょう？子どもの世話を焼くことについて親子で話し合った結果がどうかが大事です。(南野先生)

「親の務め」や「義務」と言う言葉の裏に、親自身の不安解消のためにやっている「監視」は、子どもの自立・自律にかえって逆効果です。(前岡先生)

ご意見番の先生方

大阪府立八尾北高校
南野忠晴先生

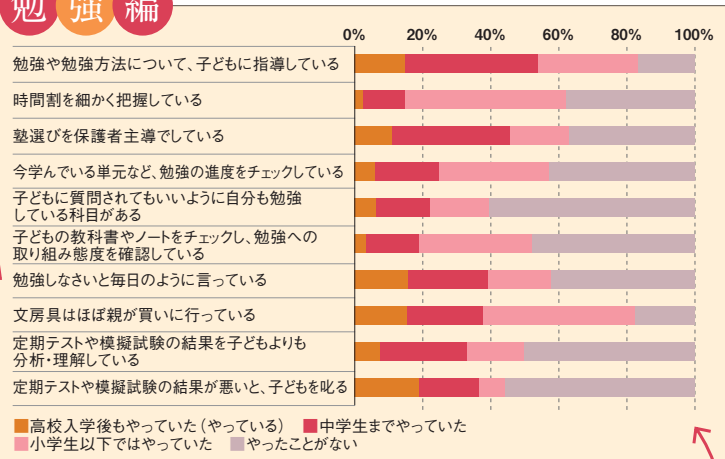
大阪府立高校初の男性家庭
科教員として「生き方」を考え
る授業を展開。10ページで「自
立」について具体的に語って
くださっています。

私立中村中学・高校
前岡克美先生

進路指導部を「キャリア
センター」とする中村中
学・高校の同センター
長。11ページで保護者の
「支援」について語っ
てくださっています。



勉強編



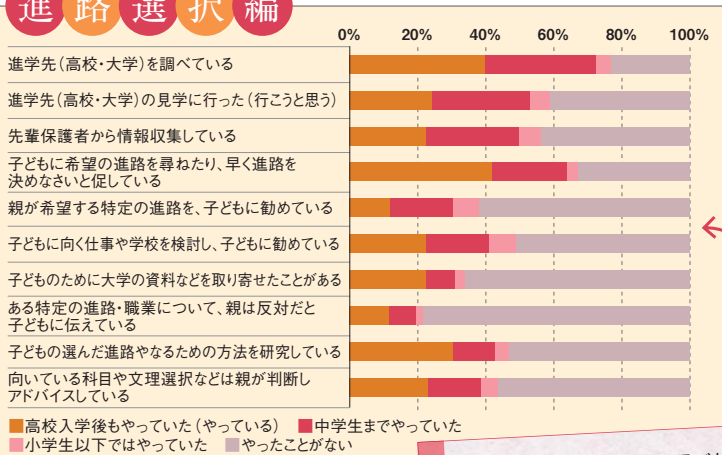
「ハードな部活と勉強の両立で睡眠時間が少ないので起こしている」
「風邪をひくと困るから、服装のチェックは親の務め」
「子どもが勉強しているのに先に寝るのは気が引ける」
「費用は親が払っているし、携帯をチェックするのも親の義務」
「成人するまでは親の管理下にあるので、外出先は把握しておきたい」

保護者の言い分

進学先を調べる際、大学名からではなく、子どもがやりたいことが学べる学部や学科から調べてほしいですね。進路は親子でぜひ話し合ってほしいですが、「早く」と催促する必要はないですね。(前岡先生)

逆の立場で、親が子どもから毎日「お母さん今日もちゃんと働いて」って言われたらイヤですよ。(笑)。試験の結果も、叱って成績が上がる効果を感じている人は少ないのではないのでしょうか？(南野先生)

進路選択編



「子どもと親が一体となって勉強に取り組む姿勢が大切」
「『勉強しなさい』は単なる口癖」
「子どもに質問されてもいいように自分も勉強している」
「客観的にアドバイスしたいので試験結果は把握している」
「試験の結果が悪くて叱る人がいないと危機感がなくなる」

子どもの情報や判断は、狭くて偏っていることが多いので、親の想いとは食い違いが多々ありますが、頭から否定はせずに、聞く耳を持って相談相手になってあげてください。(南野先生)

高校生になったら急に勉強し始めるわけではないので、毎日言う必要はないですが、促すことはしてほしいですね。試験は結果よりプロセスが大事なので、少しでも成績が上がったらほめてあげましょう。(前岡先生)

「正解」はありませんが、そのかわりは子どもの幸せに結びついていくか考えていきましょう!

「大学を本人が調べる時間がないので親がやっている」
「3年になってから進路を決めるのでは遅いから」
「就職難の時代なので安定した職に就いてほしい」
「経験の少ない子どもに知恵を与えるのが親の務め」
「親にも情報がないと子どもにアドバイスできない」

保護者の言い分

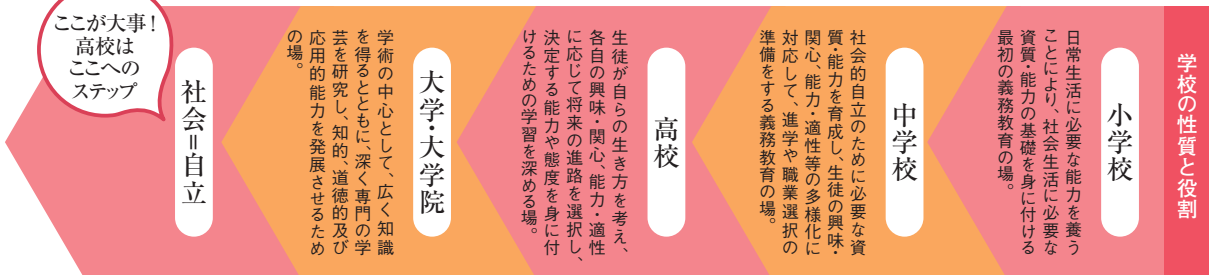
高校生は中学生と何が違うのでしょう？

高校生になってわが子が急に変わるわけではありませんが、小・中学校と続いてきた学びがさらにステップアップし、将来像をより具体化させる段階に入ってきます。中学生と高校生の違いを、学びの場と子ども自身の変化で見えていきましょう。

中学で「自立」の資質養成、高校では「自律」が教育目標

下の図表は、文部科学省が提示している学校段階に応じた教育目標を抜粋したものです。日本では中学までが義務教育とされ、その後職業に就く生徒もいるため、中学校の時点で「社会的自立のために必要な資質・能力を育成」とされています。中学を卒業した時点で、本来は自立できる素養が身につけていることが目標だったということです。みなさんのお子さんはどうでしょう？

高校では下記に加え、社会人として将来学び、働き続けるための「正義感、責任感、公德心や自律の精神を養うことが重要」とされています。高校に入ると次は大学等への進学や就職が目先の目標となりますが、高校も大学も社会へ出る通過点に過ぎず、それまでに「自立」と「自律」を完成させるということです。これは学校教育だけの目標ではなく、家庭での子育てそのものの目標ともいえます。保護者もこのことをあらためて意識し、理解しておきましょう。



心も体も環境も変わる 思春期から青年期の過渡期

学校段階の教育の目標が高まる一方で、子どもたち自身の成長過程や環境にも変化が訪れます。体の成長は中学までよりも緩やかになる子どももいますが、高校で体格が変わる子どもも多くいます。

中学よりも通学が遠くなるケースがほとんどで、新しい友人たちとも出会い世界が広がることで、視野も広がっていきます。高校では入学直後から進路指導が始まるところも多く、将来の希望について真剣に考え始める時期でもあります。また、部活や生徒会活動も中学よりも盛んになり、家で過ごす時間が中学よりも少なくなってきました。

こうした子どもの変化に戸惑いを感じたり、心配になる保護者も少なくありません。前ページのアンケートでも、子どもが心配でひたすら手をかけている保護者の声が多く見受けられました。子どもの変化を自立へのステップと受け止め、子離れする準備が親側にも必要なのです。

高校生 中学生



高校生が親に求める「よい」とは？

親が子どもにしてあげたいことがある一方で、子どもたちは親に何をどこまで求めているのでしょうか？ 高校時代の親とのかわり、してほしいこと、してほしくないことについて、高校生と大学生にホンネの話を聞いてみました。

手をかけられすぎと感じたけれど感謝の気持ちで勉強に励めた

高校のときは朝起こしてもらったり、食事を気にしてもらうなどの生活管理は頼りにしていましたが、集中力が高まったときに「早く寝なさい」とか言われると、大きなお世話だと思ってしまったこともあり。私が左利きのせいか、包丁持つだけで危ないと言われて、手をかけすぎだと思うこともあります。でも進路は自分で決めろと言ってくれたり、学校の先生が「いい大学を目指せ」と言うと、母は「そこで何がやりたいの？」と学校とは違う視点を与えてくれたりしたことに感謝しています。その感謝に応えるには、勉強して結果を出し、やりたい仕事に就くことだと思っているのでがんばっています。

東京都 私立大学2年Yさん(女子)

言われないと勉強しないんだけど毎日言われるのはうざい

中1の頃は自分もちゃんと勉強していたけど、中2からだらけてしまって、それからお母さんは顔を見るたびに「勉強しろ」と言う。部活で疲れてボーッとしてたりするから、言われないとやらないんだけど、あんまり言われると「やるやる」ってただ答えて3割くらいしかやってません。

お母さんとはよくしゃべる方。仕事だけじゃなくて趣味やNPOとかいろんなことしているので、その話もよくしてくれて、そういうのは楽しい。昔はスポーツ選手になりたかったけど、才能ないから無理って思ったときに、お母さんが「スポーツ関連で他にこういう仕事があるよ」と教えてくれたりするのありがたいと思いました。

東京都 私立高校2年Iさん(女子)

大人の理不尽な態度には反発する進路は自分で決めるべきこと

うちは勉強については放任主義なので、親には勉強しろと言われたことはないです。言われるのがイヤなタイプなので言わなかったのかもしれませんが、勉強できなくて困るのは自分なので、言われなくてもやったというか。親ではないですが学校の先生が自分の機嫌だけで怒ったり、上から目線で何か言ってくると反発しがちになるので、大人は理不尽なことはしないでほしい。進路も自分で決めた方が責任が持てるので、親が口出しするより子どもに任せた方がいいと思います。ただ、自分は学費が高い学部を希望しているため、親から国公立ならいいと言われてるので、それに向けて準備を始めています。

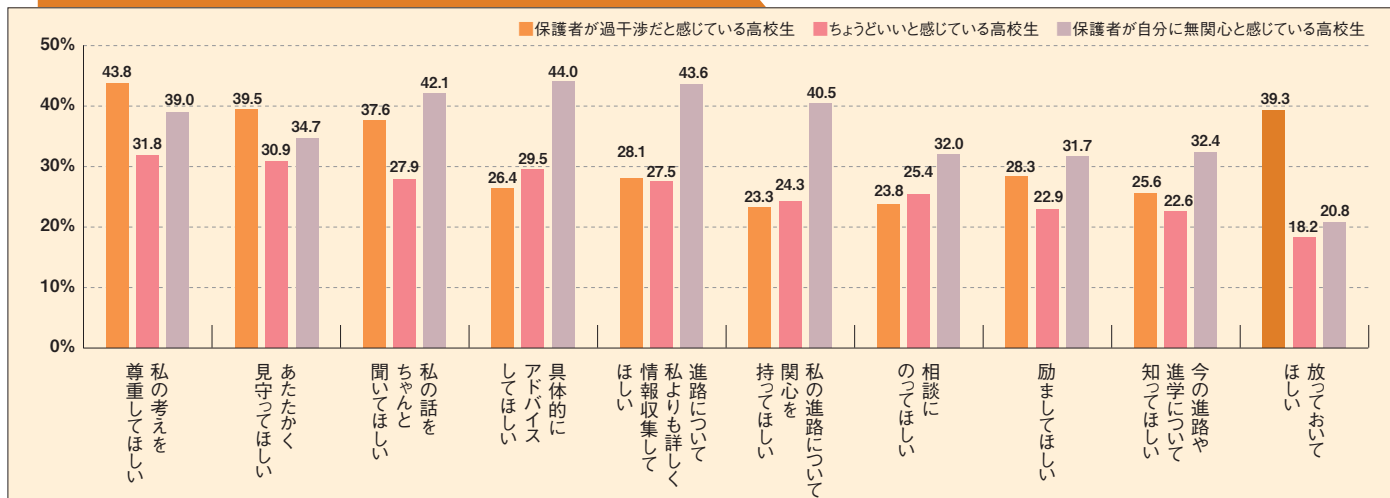
茨城県 県立高校2年H君(男子)

自分を尊重しつつ相談にものってほしい

家庭によって親子関係はさまざまですが、取材に答えてくれた生徒たちや、下記のグラフを見ても、親の干渉度にかかわらず、子どもたちはまず「自分の考えを尊重し」「あなたたく見守ってほしい」と感じています。進路選択については子どもが親の考えと異なる希望を持っていても、まずは否定せずに「話をちゃんと聞き」、子どもにはない大人としての視点でアドバイスしてほしいと望んでいるようです。

保護者の態度別：進路を考える上で保護者にしてほしい行動・態度

一般社団法人全国高等学校PTA連合会・株式会社リクルートマーケティングパートナーズ 合同調査 第6回「高校生と保護者の進路に関する意識調査」2013 対象：高校生2,044名、保護者1,704名、2013年9月24日～2013年10月31日実施(以下のグラフも同様)



保護者の役割はズバリ「自立支援」

その名の通り子どもをかばい、守る立場の「保護者」。子どもが未成年の間は保護者と呼ばれ続けるものの、自立や自律に向かっていく学校教育の後半戦ともなれば、役割はただ守ることだけでなく、「自立支援」へとギアチェンジが必要です。

「自立」とは具体的に何か？

教育の目標の中での「自立」とは、辞書にあるような独立やひとりだちとは意味合いが異なります。では、具体的にどのような状態を指すのか、南野先生にうかがいました。

**わが子を「子ども」として扱わず
「大人になろう」と見ている人」と見てほしい**

**大人とは、「4つの自立」が
できている人のこと**

私は授業の中で、4つの自立について生徒たちに話しています。それは、自分で自分の暮らしを整えることができる「生活的自立」、自分で責任を持って判断できる「精神的自立」、収入に合わせて生活する見通しを持って暮らせる「経済的自立」、性を道具のように使わず、豊かな関係性を築くために使う「性的自立」のことで、この4つができる人を「大人」と伝えています。

自立と言ってもいつもひとりり何かをしなければならぬのではなく、人の力が必要なときは借り、逆に困っている人がいれば力を貸せる、持ちつ持たれつとの関係性を作れることが大事です。

では、保護者の方々はわが子をどう見ているのでしょうか？ 面倒を見てあげたい存在とすれば、まだ「子ども」として見ていることになりま

者として扱われ、社会的活動に参加してました。その年齢でも大人と同じ体力や能力を持っているということなんです。しかし今は高校という枠の中でしか能力を発揮する場がないため、経験を積む場がなく、勉強や部活の成績でしか判断されていないことが多いのです。保護者がわが子を子どもとしてしか見ていなければなおさらです。

**役割を与えて、自分の
可能性を発見させる**

わが子を「大人になろう」として見る人として見て、日常生活の中でも役割を与えると、自立の道はぐんと近づいてきます。例えば私が「お弁当を自分で作ってみてください」と生徒たちに言ったところ、3年間それをやり遂げた生徒がいました。初めは大変だったようですが、続けるうちに料理や買い物のコツがわかり、最後には要領良く作れるようになり、自信につながったと言っています。



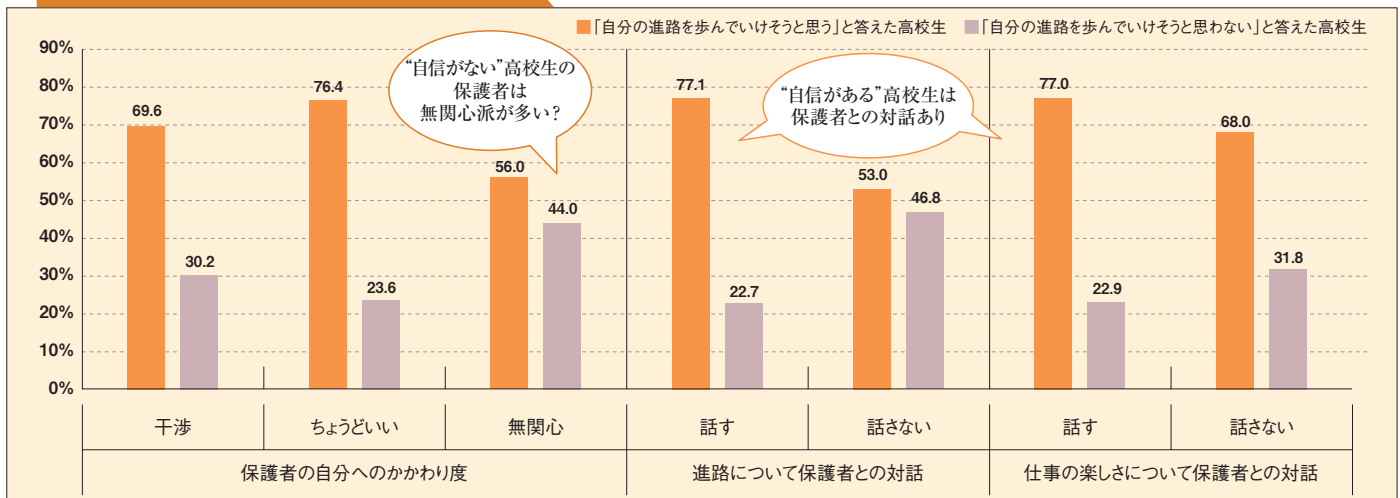
大阪府立八尾北高校
南野忠晴先生

13年間英語教員を務めた後、大阪府立高校で初の男性家庭科教員に。NHK教育テレビ高校講座「家庭総合」講師。著書に「正しいパンツのたみ方」(岩波ジュニア新書)など。

子どもに手をかけすぎるのは「支配」と同じことで、子どもは「言うことを聞いていれればいいんだ」となってしまう。そこには親子の「信頼」がありません。自立支援に最も大事なものは信頼で、親が信頼して何かを任せれば、子どもはそれに応えようと思えるのです。朝起こしたり、勉強しなさいと言うのは、わが子を信頼していない証拠。「心配」だからと言う人もいますが、多くの場合、親自身の安心のためにやっているのです。

親は子どもよりも人生経験に長けています。少し先の未来を見据えて、わが子がどんな大人になっているかイメージしながら接してほしいと思います。どう生きていきたいかは子ども自身が決めることですが、それを決められるよう個性を一緒に探してあげるパートナーであってほしいです。

自分の進路を歩んでいけそうか (進路への自信)



では保護者はどこまで「支援」する？

わが子の自立のために保護者がすべき「支援」について、進路指導に「キャリアデザイン」の概念を取り入れている中村中学・高校の2名の先生にお話をうかがいました。

子どもへの接し方の段階



例えばテストで30点だった子が次の「ほめ」、弱みややらなければならぬことに対しては「はげまし」、夢や希望を「育む」ことです。意外にやっていないのがほめること。例

「前岡先生」高校生だからどの段階ということはありませんが、当校で、自立の道をうまく歩めているなど思える生徒の保護者に話を聞くと、「本人のやりたい道を妨げないことを心がけている」とお答えになります。親が口出しせず、見守っているのです」

「永井先生」子どもに対する親の接し方には、手をかける「HELP」から、目に入っている「SEE」までの6段階があると伝えていますが（左図参照）。『手』をかけて世話をする状態から、『目』で見守る状態へと変化していきます」

「手をかける」段階から「目をかける」へ
家庭だけで背負わず、学校と協働で支援

見守りながら、ほめて
長所を認識させてあげたい

テストで40点だったとき、10点も上がっているのにほめないのです。80点が90点になったらきつとほめると思っています。結果だけではなくプロセスを見てあげて、同じ10点上がった喜びに差を付けないでほしいのです」

「前岡先生」プロセスというのは、机に向かうようになったとか、昨日できなかつたところが今日できているということ。つまり目をかけていないとわかりません。保護者の方に「お子さんの長所を挙げてくださーい」というと出てこないことが多いので、自分の長所がわかっていません。将来の希望を持つためには「自信」を持つことが大切です」

自立支援は、家庭と学校が「協働」することが大切

「永井先生」子どもの自立支援は、学校と家庭が共に行うべきことで、協働して連携を取り、協働しあうことが理想です。下のグラフを見ると、「働く意義について教える」や「将来の目標を持たせる」ことは、「家庭のみ」とお考えの保護者が多数派ですが、本来は学校も含めた生徒にかかわるすべての大人が支援すべきことだと思います。また、「勉強する意味を教える」や「人間関係を築く力をつけさせる」

私立中村中学・高校 副校長
永井哲明先生



私立中村中学・高校 キャリアセンター長
前岡克美先生



2002年、進路指導部長を担当した際、同校に「キャリアデザイン」の授業を導入。2級キャリア・コンサルティング技能士、ガイダンスカウンセラー、上級教育カウンセラーなど資格多数。

生徒のキャリアデザインをサポートする「キャリアセンター」を統括。キャリア・カウンセラーの資格を持ち、生徒一人ひとりを最適な進路へと導くサポートを実施。

「について『学校のみ』と回答した方が30%を超えています。これもやはり、学校と家庭が協働であるべきで、人と向き合う姿勢や学ぶ姿勢は、家庭環境の影響も大きいものです」

「前岡先生」『学力をつけさせる』は7割に近い方が学校だけの役割とお答えです。しかし、学力には知識力など数値化できるものと、数値化されていない『努力・継続の習慣』や『優先順位を付けて実行に移せる力』なども含まれ、卒業後も生きていくために必要になります。その力を身につけるには、家庭の役割も大きいのです」

「永井先生」自立には個人差があります。子どもの段階を家庭と学校で見守っていきましょう」

この自立支援、学校がやるべき？ 家庭がやるべき？ (高校生に対する保護者が考える自分の役割)

